

## 「仏教の三大聖樹」

(仏教三霊樹)

仏典に出てくる代表的な花木を「仏教の三大聖樹」又は「仏教三霊樹」などと呼ぶ。

釈迦が「生まれた時」「悟りを開いた時」「亡くなった時」に関わった樹木です。

1. **無憂樹** (ムユウジュ) アソカノキ 釈迦誕生 この木の下で生まれたと言われてしています。
2. **印度菩提樹** (インドボダイジュ) 釈迦悟り この木の下で悟りを開いたと言われてしています。
3. **沙羅双樹** (シャラソウジュ) 釈迦入滅 この木の下で入滅されたと言われてしています。

仏教はインド・中国・百済を経由して日本に伝わったと言われてしています。

### 1.アソカノキ(無憂樹)

釈迦の母マヤ王妃が城内に咲いていたアショカノキの花に手をふれようとした時、腋の下から釈迦が生れでて第一声「天上天下唯我独為尊」を放ったという。

天上天下唯我独尊 (てんじょうてんげゆいがどくそん)とは

この世に個として存在する「我」より尊い存在はないということ。人間の尊厳をあらわしている言葉だが、「唯我独尊」はこの世に自分より優れたものなどないという思い上がりの意味でも使う。アソカは「無憂」という意味なので、日本では、無憂樹(ムユウジュ)と呼ばれています。

マメ科アショカノキ属の落葉中木で、お目出度い木で、花は美しい。



ムユウジュ(無憂樹) 耐寒性がない。

### 2.インドボダイジュ

クワ科イチジク属の常緑樹。日本ではシナノキ科の菩提樹と区別してインド菩提樹と呼んでいる。釈迦がブッダガヤに生えていたこの大木の下で悟り(Bodhi, 菩提)を開いたことから菩提樹と呼ばれた。インド菩提樹は耐寒性が弱いですが、温暖化の影響で関東以南では外でも育つ様です。

初夏の頃、小さく黄色っぽい、目立たない花が咲く。

1168年、臨済宗の開祖栄西が、葉の形がインド菩提樹に似ていることから本物のインド菩提樹と勘違いして日本に持ち帰って、多くのお寺に植えたという説がある。



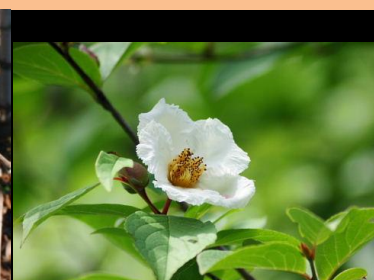
インド菩提樹の葉

耐寒性がない。

鶴林寺(かくりんじ) 兵庫県の菩提樹

### 3. シャラノキ(沙羅双樹)

紀元前 386 年 2 月 15 日、入滅を予知した釈迦は、ヒマラヤ山麓クシナガラを流れるヒラニヤヴァティの河岸にはえていた一対のシャラノキの間に死の床を用意させた。入滅の時、シャラノキが枯れ、こずえがまるで白い鶴が群がるように見えたという。鶴林寺の言われでもある。日本では一般に沙羅双樹と呼んでいる。シャラノキはフタバガキ科シャラノキ属の常緑高木。sala は硬いという意味を持つ、ボダイジュ同様、日本では冬は温室でないと生きていけない。日本の寺院の境内でシャラノキとしているのは、葉の形が似ているツバキ科のナツツバキである。



成田山釈迦堂前の沙羅双樹 (これは夏椿)

沙羅の花

三笠宮崇仁親王殿下・百合子妃殿下お手植え<平成7年6月>

#### シャラノキ

一名<夏椿>サルスベリのような樹皮をもつ落葉高木。初夏にツバキに似た白い花が咲きます。沙羅双樹といえ、平家物語の冒頭を思い浮かべますね。

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす。」  
仏教三霊樹で成田山境内に植樹されているのは、沙羅双樹のみ。しかしインド沙羅樹ではない。

仏教三霊樹は、どれも耐寒性がなく境内に植えることは無理な為か見あたらない。

#### 余 談 (私 見)

①釈迦堂東側の大木「しいの木」は菩提樹の代わりとして植樹したものか？ (下記写真左)

②ふくれミカン (福来みかん) 茨城県つくば市特産 釈迦堂前右側 (下記写真右)

菩提樹の下で悟りを開いてしばらく経ったある日、村の子どもたちと一緒にミカンを食べた。この時釈迦は「ただ食べる」だけでなく、このミカンは、どこの誰が作り、だれが持って来たのか？ 釈迦は仏教での「縁起」を考えながらミカンを食べることを教えたといわれています。この様なことから、縁起の良いふくれミカンが植樹されたのかも？



上部が折れた右側の木 (しいの木)



福来 (ふくれ) ミカン